

**【施策評価調査】**

施策名	2-4-7	児童虐待防止ネットワークの充実		92	子ども達が親やその他の養護者からの暴力・精神的虐待・放置等を受けることなく健やかに成長できるようにする 子ども達への虐待を早期に発見することにより、子ども達の安心安全を確保するとともに、虐待をしてしまう親等の精神的ケアを行う。
	※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ				
担当部課	教育部 こどもみらい課	担当 リーダー	児童福祉担当 横塚 恵子		
環境変化					児童虐待や配偶者からの暴力、いじめなどを早期発見し、早期対応をとるため、定期的なケア検討会の開催、要保護児童への訪問、育児支援家庭訪問コーディネーターの活用などを行うことにより、保護、支援、アフターケアに至るまでの総合的な支援体制を充実させます。また地域からの情報が得られるようネットワークづくりを強化していきます。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

**■指標**

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:児童虐待件数(件)	平成16年度	計画	20件	18件	15件	12件	10件
	21件	実績	↑ 12件	↓ 25件	↓ 20件	→ 12件	
指標②:相談件数(件)	平成16年度	計画	257件	260件	265件	270件	280件
	237件	実績	↓ 156件	↑ 447件	↑ 362件	↓ 119件	
指標③:		計画					
		実績					
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	3,034,000	2,931,000	3,417,000	2,516,000	
	決算	2,774,119	2,717,060	2,470,488	2,469,630	

**■事務事業事後評価 21年度の検証**

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか? (アウトカム)			
①育児支援家庭訪問事業	当初 2,486,000	年間家庭訪問件数	A	育児支援が必要と思われる家庭に対し積極的に働きかけていく事業で、施策目的を達するために欠くことのできない事業です。			
	決算 2,469,630	130件 / 300件		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
②児童虐待防止キャンペーン事業	当初 0	ワークショップ参加者数(3箇所)	B	計画は変更となったが、オレンジリボンキャンペーンや子育てワークショップを実施して啓発活動に努めました。			
	決算 0	— / 300人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
③要保護児童対策事業	当初 30,000	会議の開催回数	A	虐待の未然防止や、家庭への介入、支援などに際し、関係機関の連携を強化していくことが非常に重要です。			
	決算 0	12回 / 12回		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

**■施策事後評価 21年度の検証**

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	要保護児童対策地域協議会の運営と、他事業との連携に重点を置きながら、関係機関との協力体制を維持することができています。	今後は、虐待を未然に防いでいくための意識啓発などに力点を置いていく必要があると考えています。
総合評価	相談事業、啓発事業、各関係者等と共通認識を図る事業など連携した施策展開されていることを評価する。今後も虐待を防止していく上で、町の状況等を把握し、町ができることと他に委ねることを整理しながら、町にとってどういった手法が虐待を防止するのに最も有効なのか研究するとともに、民間や関係機関と連携した施策展開を行うこと。	